

単元名：

「うれしいことば」

(全2時間扱い中 第2時)

授業日時 2019年8月29日(木) 第2校時

授業学級 2年西組

授業会場 2年西組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

児童は、どんなときにどんなことを言われて嬉しかったのかを思い出し、そのときの気持ちを文章で表すことができる。

(2) 授業のポイント

- ・うれしいことば探しの場面で、子ども達が、友達や先生に言われたうれしいことばを思い出した。【前時までの子どもの様子】
- ・どんなときにどんなことを言われて嬉しかったのかを書くことを通して、自分の感情を表現する。【授業者の手立て】

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材・◎子どもの反応	時間
導入	1. 前回の授業について思い出す。	○「先生は、授業の間の休み時間の時に、みんなが先生のけがをみて、「どうしたの？」って心配してくれたのが嬉しかった。」 ◎「僕それ言ったー」 ◎「私もー！」 ・「うれしかったから、ちょっと書いてみたんだー」 ★上記のうれしいことばを書いた紙を黒板に貼り、提示する。 ◎「前、書いたー」 ◎「覚えてるー！！」	5分
	2. ゆりさんのうれしいことばを見て考える。	○「前書いたものをみんなで見あおうかなと思います。そのときに、なにがうれしかったのかっていう内容よりも、どんなことばをつかっているのかなっていう書き方について注目して見てほしいなと思います。」 (意図) その後の書き方の工夫につなげるため。 ★国語のノート ◎「このことば素敵だね。」 ○「友だちが書いたうれしいことばの中で、こんなのよかったな、というのがあれば教えてください。」 ◎「ゆりさんのうれしいことばの最後に『今度は～』って書いてあってよかったと思う。」 ★パソコンでゆりさんのノートの写真を撮り、スクリーンに映す。 ○「なんでこの言葉を書こうと思ったの？」 ◎「友達にも嬉しい思いをしてもらいたいと思ったから。」	15分

導入		<p>◎「嬉しいことをしてもらったから、自分もしてあげたいと思った。」</p> <p>○「ゆりさんがうれしかったんだなということがこの文からすぐ伝わってくるよね。」</p> <p>◎「ぼくもこういうふうに書きたい。」</p> <p>◎「どういうことばをつかえばいいのかな？」</p>	
	【学習課題】うれしいことばを自分の気持ちが伝わるように文章にして書こう。		
展開	3. うれしいことばを書く。	<p>○「うれしいことばを書くときにこの前の授業で二つのことを書こうって話を若林先生がしてくれたんだけど覚えてる？」</p> <p>◎「覚えてるー」</p> <p>◎「～の時」</p> <p>◎「なんて言われたか」</p> <p>○「今回はそれにプラス、うれしいきもちをつたえるためにはどうしたことばをつかえばいいのか考えて色画用紙に書いてほしいとおもいます。」</p> <p>★見本として事前に画用紙にうれしいことばを書いたものを提示する。</p> <p>◇見本はあくまでも一例であり、見本に沿って書かなければいけない訳ではないことを説明する。</p> <p>★色画用紙を配布する。</p> <p>◇下書きや書くことをまとめた子どもには国語のノートを使ってもらおう。</p>	13分
	4. 班の人に紹介をする。	<p>○机を班の形にして、班の人とうれしいことばを紹介しあいましょう。」</p> <div> <p>【評価(対象)】児童は、どんなときにどんなことを言われて嬉しかったのかを思い出し、そのときの気持ちを文章で表している。(ワークシート)</p> </div>	7分
終末	5. まとめ	<p>○「うれしいことばって言われた側はもちろん嬉しいけど、言う側はどうか？」</p> <p>◎「嬉しいー！」</p> <p>○「2西の教室が、うれしいことばであふれるクラスになったらいいなあ先生は思います。」</p>	5分